

音楽文化を創造する生徒の育成

～音楽鑑賞と ESD for SDGs～

南城市立玉城中学校 新城 菜々子

I テーマ設定の理由

近年、日本人演奏家の国際コンクール上位入賞に関するニュースが多く報道されるようになり、世間の音楽への関心の高さがうかがえる。更に、オンラインでの演奏会や日本初のオーケストラのための株式会社の設立など、持続的かつ発展的な活動ができるよう演奏家自身による新たな取り組みが始まっている。また、2015年の国連総会では「持続可能な開発目標」Sustainable Development Goals:SDGs(以下、「SDGs」)が採択され、2030年までに達成すべき17の目標が掲げられ目標達成へ向け社会全体で様々な取り組みがなされている。このような社会背景から、学習指導要領解説では、「一人一人の生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。」とあり、学校教育を通して「持続可能な開発のための教育」(以下、「ESD」)を推進することが求められている。加えて、沖縄県におけるSDGs推進(沖縄らしいSDGs)の基本理念を「平和を求めて時代を切り拓き、世界と交流し、ともに支え合い誰一人取り残さない、持続可能な『美ら島』おきなわの実現」と掲げ、この基本理念達成に向け音楽教育を通して向き合っていきたい。

これまでの実践を振り返ると、SDGsについて委員会活動等で啓発活動を行ってきたが、教科指導も含めさらに取り入れていきたいと考える。教科指導では音楽の知識・技能の習得に重点を置いた授業を行い、演奏できる楽しみの追求をしてきた。実技教科ということもあり、生徒自身も演奏できることに喜びや充実感を感じていたように思う。コロナ禍にある現在は、活動の制限が多く、思うように活動ができない中、鑑賞・創作・実技を通して知識・技能の習得ができるよう思考錯誤しながら授業を進めてきた。しかし、音楽の持つ多様性や、人が感情を伝え共有するために音楽を通じたコミュニケーションがある等の音楽文化について授業で取り扱うことが不十分であったため、音楽に対する価値意識を広げたり音楽文化の豊かさを感じさせたりすることに課題がある。

そこで本研究は、ESDの視点から様々なつながりを大切にした音楽鑑賞を行い、授業を通して生徒が音楽文化を創造できるよう手立てを講じていきたい。それは学習指導要領音楽の目標である「音楽によって生活を明るく豊かなものにする」の達成へ向かいつつ、より豊かで持続可能な未来を創ろうとするSDGsの達成へ向かう態度を養うことにつながると思う。この時に最も大切にしたいことは、音楽鑑賞を主軸に置くことである。ここに、音楽科で「持続可能な社会の創り手」を育成する価値があると考えている。

これらを踏まえ、題材名「ポピュラー音楽を聴いて、そのよさを味わおう」において、ESDの視点に立った音楽鑑賞を行うことで、音楽文化を創造する生徒が育成されるだろうと考え、本テーマを設定した。

II 研究仮説と検証計画

1 研究仮説

ESDの視点に立った音楽鑑賞を行うことで、音楽文化を創造する生徒が育成されるだろう。

2 検証計画

検証授業の対象：南城市立玉城中学校 3年3組		主な検証方法
1 事前調査	・音楽の授業に関するアンケート(6月)	・事前アンケートの分析
2 検証授業	日程	検証の観点
	鑑賞の領域 「ポピュラー音楽を聴いて、そのよさを味わおう」 全3時間	第1時 ・曲同士の共通性、固有性を見つける 第2時 ・それぞれのジャンルの成り立ちを知る 第3時 ・音楽のよさを音楽的根拠を持って伝えることができる
3 事後調査	・事後アンケート(7月)	・生徒のワークシート等の分析 ・毎授業後の振り返りシートの分析
4 まとめ	ESDの視点に立った音楽鑑賞を行うことで、音楽文化を創造する生徒が育成されるだろう	・アンケート、振り返りの比較、分析 ・結果のまとめと考察 ・研究の成果と課題
5 SDGsの目標		

III 研究内容

1 音楽文化を創造する生徒

(1) 音楽文化とは

学習指導要領解説音楽編(以下、「解説音楽編」)によると、「曲や曲種についての知識の量を増やすといったことだけではなく、様々な音楽がもつ固有の価値を尊重し、その多様性を理解できるようにするとともに、音や音楽によって、人は自己の心情をどのように表現してきたか、人と人とがどのように感情を伝え合い、共有し合ってきたかなどについて、生徒が実感できるように指導することが大切である」と述べている。このことから、音楽文化とは、「様々な音楽が持つ固有の価値やその多様性」「人が感情を伝え、共有するための音や音楽を通したコミュニケーション」と考えることができる。本研究では、ロック・ジャズ・ボサノヴァの3つのジャンルから3曲鑑賞する。単にその音楽があることを知るだけではなく、人々の暮らしと共に音楽文化があることを実感するため、3つのジャンルの歴史的なつながりが理解できるよう授業で取り上げていく。

(2) 音楽文化を創造するとは

音楽科の教科の目標として「生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力の育成」がある。「生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力」とは、解説音楽編では「生活や社会の中の音や音楽、音楽文化との関わり方には、歌う、楽器を演奏する、聴くなど様々な形があるが、そのいずれもが音や音楽、音楽文化を知り、支えることとなり、生活の中の音や音楽の働きを自覚し、音楽文化を継承、発展、創造することにつながる」と述べている。そこで、本研究では、音楽鑑賞を通して、ポピュラー音楽とはどのような音楽なのか、どのような成り立ちなのかという学習を通して音楽文化の理解につなげていく。事前・事後アンケートで「音楽は、普段の生活の中でどのような役割があるのか」という設問を

設け、授業を通して音楽文化について理解が深められたか検証していく。加えて、生活の中の音や音楽の働きを自覚するための学習として、音楽のよさを生徒それぞれの方法で表現する学習活動を行う。これらの「音楽文化を理解すること」「生活の中の音や音楽の働きを自覚するための学習活動」により音楽文化を創造する生徒が育成されると考える。本研究では、「人々の生活における『音楽の役割』について自分なりの考えを持つ」「音楽のよさを画像、絵、体の動きや文章等生徒それぞれの方法で表現する」姿が見られたら、音楽文化を創造する生徒が育成されたと捉えるものとする。

(3) 音楽鑑賞で育てたい知識

解説音楽編による鑑賞領域における「知識」に関する資質・能力の「イ(ア)曲想と音楽の構造との関わり(イ)音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わり」を本題材の指導事項とする。鑑賞の指導においても、「思考、判断、表現等」の資質・能力の拠り所となる「知識」に関する資質・能力と関わらせた指導をすることが大切であると考え。本研究では、「音楽を形作っている要素や構成」を知覚し、「感受」したことと関連づけて説明できるよう指導する。生徒自身が音楽を鑑賞して感受したことと、音楽を形作っている要素等を関連付けて説明したり、それを基に話し合ったりする学習を通すことにより、曲や演奏に対して音楽が自分にとってどのような価値があるのかを評価し、音楽のよさや美しさを味わうことができると考える。

2 音楽科で可能にする ESD for SDGs

(1) SDGs の達成に貢献する ESD(持続可能な目標達成のための ESD)

ESD(Education for Sustainable Development)は、持続可能な開発目標(SDGs)を達成するために不可欠である質の高い教育の実現に貢献するもの(ESD for SDGs)である。ユネスコ国内委員会による ESD 推進の手引きに、「SDGs が学校教育で果たせる役割として、目標 4.7『2030 年までに、(中略)持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする』」と述べられている(図 1)。更に「学習指導要領において、これからの学校教育や教育課程の役割として『持続可能な社会の創り手』となることができるようにすることが前文と総則において掲げられ、ESD の理念が組み込まれる形となりました」と述べられている。このように学習指導要領に沿った授業を展開することで、SDGs で述べている知識・技能の習得につながると考える。



図 1 目標 4.7 を表す図

(2) 音楽科における ESD とは

国立教育研究所によると ESD は、「『地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて自ら行動を起こす力を身に付けるための教育』であり、様々な問題が遠い世界で起きていることではなく、自分の生活に関係していることを意識づけることに力点を置く」と述べている。このことから音楽鑑賞を通して学んだことが SDGs の何番と関連しているのか、なぜそう思うのかを授業の振り返りを通して考えさせ、音楽を通して SDGs に参画していく態度を養っていきたい。また、宮下他(2019)で「音楽科で責任をもって『持続可能な社会の創り手』の育成に備えておかなければならない本質として、『感性』がある」と述べている。「感性」とは、解説音楽編によると「音や音楽のよさや美しさなどの質的な世界を価値あるものとして感じ取るとき心の働きを意味している(中略)生徒が、音楽を形作っている要素の知覚・感受を支えとして自ら音や音楽を捉えていくとき、生徒の音楽に対する感性が働く。こうした学習を積み重ねることによって、音楽に対する感性は豊かになり、『この音の方が自分にとって心地のよい音だ』、『この音楽の響きには豊かさが感じられる』、といった意味付けが確かなものになっていく」

と述べている。

本研究では、自分が感じ取ったことは、なぜそう感じ取れたのか音楽の要素と結びつけて考えたり、理解したりする活動を取り入れていく。この活動をすることにより、知覚・感受を支えとして、自ら音や音楽を捉え、音楽に対する「感性」が育成されていくと考える。更に、宮下他(2019)を参考に ESD の視点に立った学習指導の目標を作成し、授業づくりで活用する(表 1)。「持続可能な社会づくり」の構成概念は、いろいろな音楽があること(多様性)、「音楽はいろいろな要素が関わり合っていてできる」(相互性)、「音楽によって平和な社会を存続していくことができる」(有限性)、「音楽はすべての人々にとって等しく価値あるもの」(公平性)、「音楽によってさまざまな人々をつながることができる」(連続性)、「音楽文化を継承・発展・創造していくこと」(責任性)、ESD の視点に立った学習指導で重視する能力・態度は、「代替的な意見を持つ力」(批判的に考える力)、「音楽を聴いてイメージを持ち、他の課題へ生かそうとする力」(未来を予測して計画を立てる力)、「音楽が時代・背景・風土などと関わっていることを考え、理解できる力」(多面的・多角的に考える力)、「音楽を聴いて交流し合うことのできる力」(コミュニケーションを行う力)、「皆で曲に対して考えを深めていく態度」(他者と協力する態度)「自分と音楽との関わり、自分や人々の生活と音楽との関わりについて考えることのできる態度」(つながりを尊重する態度)、「音楽文化を大切にするために、積極的に授業に関わろうとする態度」(進んで参加する態度)である。また、宮下(2019)によると「音楽が人々や社会に与える影響についての学びに踏み込むべきである」と述べている。ポピュラー音楽を通して、楽曲や曲の成り立ちについて学ぶだけでなく、音楽が人々の生活の中で果たしている役割について考える活動を取り入れることにより、音楽が人の体や心、社会に影響を与えるものである等、音楽文化を理解しようとする態度につながると考える。これらのことから、ESD の視点に立った学習指導の目標のつながりを尊重する態度に着目し、アンケートを通して「人々の生活の中における音楽の役割」について記述の変容から、つながりを尊重する態度が養われたか検証する。

表 1 宮下他(2019)を参考に持続可能な社会づくりの構成概念と ESD の視点に立った学習指導で重視する能力・態度を再構成

ESD として音楽科で扱うことのできる概念や求める能力・態度の例	
「持続可能な社会づくり」の構成概念	
I 多様性	色々な音楽があること
II 相互性	音楽はいろいろな要素が関わり合っていてできる
III 有限性	音楽によって平和な社会を存続していくことができる
IV 公平性	音楽はすべての人々にとって等しく価値あるもの
V 連続性	音楽によってさまざまな人々をつながることができる
VI 責任性	音楽文化を継承・発展・創造していくこと
ESD の視点に立った学習指導で重視する能力・態度	
①批判的に考える力	代替的な意見を持つ力
②未来を予測して計画を立てる力	音楽を聴いてイメージを持ち、他の課題へ生かそうとする力
③多面的・総合的に考える力	音楽が時代・背景・風土などと関わっていることを考え、理解できる力
④コミュニケーションを行う力	音楽を聴いて交流し合うことのできる力
⑤他者と協力する態度	皆で曲に対して考えを深めていく態度
⑥つながりを尊重する態度	自分と音楽との関わり、自分や人々の生活と音楽との関わりについて考えることのできる態度
⑦進んで参加する態度	音楽文化を大切にするために、積極的に授業に関わろうとする態度

IV 検証授業

1 題材名 ポピュラー音楽を聴いて、そのよさを味わおう

2 教材名

- (1) 「We Will Rock You」1977年に発表されたクィーンのアльバムに収録された曲で、世界に知られるロックの名曲の一つである。クィーンはイギリスの4人組ロックバンド。
- (2) 「Walz For Debby」1956年にビルエヴァンスによって作曲されたジャズの名曲の一つ。
- (3) 「おいしい水」ボサノヴァの創始者とされるアントニオカルロスジョビンによって1965年に作曲された。

3 題材設定の理由

(1) 教材観

ポピュラー音楽は「広く一般の人に親しまれている音楽」と言われ、特定の地域の音楽ではなく、世界中の人々に親しまれている曲のことを指す。本教材ではポピュラー音楽の様々なジャンルの中から「ロック」「ジャズ」「ボサノヴァ」を扱う。「ロック」は、1950年ごろからアメリカで演奏されるようになり、その成立に影響を与えたのは、ブルースとカントリーミュージックと言われている。「ジャズ」は、19世紀末から20世紀にかけて、ヨーロッパ的な音楽の要素とアフリカ的な音楽の要素が混ざり合っただけでアメリカで生まれた音楽である。「ボサノヴァ」は、ジャズやサンバを起源として、1950年頃ブラジルの若手演奏家たちによって創始された。落ち着いたリズムとささやくような歌い方が特徴で、世界中で愛されるジャンルとなった。これらは、音楽の特徴を理解すること、その特徴から生まれる音楽の多様性を理解することができる教材であると考えられる。

(2) 生徒観

事前アンケートによると、本学年の生徒は、題材で取り扱う「ポピュラー音楽を知っているか」という質問に対して、85%の生徒が「知らない」と回答した。多くの生徒が日頃ポピュラー音楽を聴いているが、ポピュラー音楽を聴いていると認識していないことが分かった。また、「SDGsと音楽の関係について」、「関係がない・どちらかといえば関係がない」と回答した生徒が44.9%いて、SDGsといえば、環境問題といった考えを持っている生徒が多い。反対に、「関係がある・どちらかといえば関係がある」と回答した生徒は55.1%おり、中には、SDGsと音楽との関係に自分の考えを持っている生徒もいる。更に、「音楽はあなたにとってどのような役割ですか」という質問に対しては、「癒し、テンションを上げる」等、自分の心情に寄り添っている存在と答える生徒が多くいる。第3時の振り返りで同じ設問を設け、音楽の役割に対する言葉の深まりを見取りたい。

(3) 指導観

本題材は、解説音楽編の第2学年及び第3学年の2内容B鑑賞(1)鑑賞ア「鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、生活や社会における音楽の意味や役割について考え音楽のよさや美しさを味わって聴くこと」鑑賞イ「音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わりについて理解すること」を受け、「ロック」「ジャズ」「ボサノヴァ」の3つのジャンルはそれぞれ単独で存在しているのではなく、長い歴史の中で人々や文化の交流によって生まれたものであるということを理解しながら鑑賞を進めていきたい。指導に当たっては〔共通事項〕の中から「音色」「リズム」「旋律」「テクスチャ」を取り上げ、音楽が持つ固有性や共通性を見だし、音楽はいろいろな要素が関わり合っただけでできているということを感じさせたい。また、鑑賞で学んだ知識を生かし、音楽のよさを生徒それぞれの表現方法で批評する活動を行うことでポピュラー音楽のよさを味わわせたい。

4 単元の指導目標

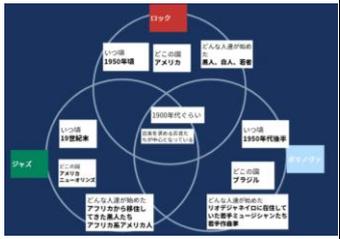
(1) 単元の目標

知識・技能	・音楽を形作っている要素を理解する。
思考力・判断力・表現力等	・音楽を形作っている要素を知覚し感受した事との関わりについて考える。 ・音楽のよさを写真や画像等を用い、根拠を持って批評する。
学びに向かう力・人間性等	・音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習に取り組む。

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
①音楽を形作っている要素を理解している。	①知覚し感受した事と音楽を形作っている要素をとの関わりについて考えている。 ②音楽のよさを写真や画像等を用い、根拠を持って表現している。	①音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わりに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習に取り組んでいる。

(3) 単元の指導計画・評価計画(全3時間)

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準 ◆検証の観点
1	 <p>ドラムを打つ生徒の様子</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・題材初めにオリエンテーションを行い、3時間で学ぶ内容、評価を確認する。 ・事前アンケートを確認し、SDGsと音楽の関わりについて題材を通して考えさせていく。 ・SDGsの図を常に提示しておく。 ・題材を通して「様々なつながり」を見つけることと伝え、音楽同士のつながり、歴史やジャンルのつながりを見つかったり、考えたりするということを示す。 <p><u>注目してほしい音楽の要素</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・何の楽器で演奏されているのか、歌詞はあるのか(音色) ・どのような旋律なのか、図形楽譜等で記してもよいことを伝える(旋律) 	<p>◆検証の観点</p>
	<p>めあて 『「ロック」「ジャズ」「ボサノヴァ」』3つの共通性や固有性をみつけよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ドラムセットで打ったり、手や足でリズムを刻んだりして体を動かしながらリズムの特徴を見つけられるよう支援する(リズム) ・楽器の構成などによる、音や旋律の様々な組み合わせ方(テキストチャ) ・3つのジャンルの比較に、ベン図を用いる。 ・音楽は様々な要素が関わり合っていることに気付かせる為に、共通性や固有性を整理させる。 ・ポピュラー音楽がなぜ親しまれているのか考えさせる。 ・振り返りでSDGsの何番と本時の学習との関わりがあるのか問う。 	<p>【知識・技能】①音楽を形作っている要素を理解している。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】①知覚し感受した事と音楽を形作っている要素との関わりについて考えることができる。</p> <p>◆音楽とSDGsの関係について自分なりの考えを持つことができたか。</p> 
2	<p>めあて「ジャズ・ロック・ボサノヴァの成り立ちにどのような共通点があるか」</p> <p>・3つのジャンルの成り立ちを調べる。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽は、様々なジャンルが相互に影響し合って発展してきたことに気づくよう、教科書の相関図を用いて解説する。 ・ベン図を活用させる。 ・音楽は、長い歴史の中で人々の関わりや新しいものを生み出そうとする思いによって生まれたものであると気付かせる。 ・振り返りでSDGsの何番と本時の学習との関わりがあるのか問う。 	<p>【学びに向かう力・人間性】①音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わりに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習に取り組んでいる。</p> <p>◆音楽とSDGsの関係について自分なりの考えを持つことができたか。</p> 

事前学習	<p>・次時は、3つの曲の中から好きな曲を用いて授業を行う。</p> <p>①3つの曲から好きな曲を1曲選択する。</p> <p>②選択した曲に合う画像、写真、図系譜、ダンス(動き)絵等を考えて持ってくる。画像、写真は、クロムブックに取り込み、ダンス等は考えてくる。</p>	<p>○ある程度考えられる選択肢を挙げておく。</p> <p>例)ロックっぽい動き、ボサノヴァっぽい写真、ジャズが流れていそうな風景写真</p> <p>○クラスルーム、ロイロノートに曲を入れて聴けるようにしておく。</p>	
3本時	<p>めあて「曲のよさを伝えよう」</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p> 4.7</p> <p>2030年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進グローバルシチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、すべての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p> 12.8</p> <p>2030年までに、人々があらゆる場所において、持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識を持つようにする。</p> </div> </div> <p>◆音楽とSDGsの関係について自分なりの考えを持つことができたか。</p>		

5 本時の指導(3/3時間)

(1) 本時のねらい

ポピュラー音楽のよさを音楽的根拠を持って伝えることができる。

(2) 検証の観点

ESDの視点に立った音楽鑑賞を行うことで、音楽文化を創造する生徒が育成されるだろう

- ① 音楽のよさを生徒それぞれの方法で表現し、音楽的な根拠を持って伝えることができたか。
- ② 音楽とSDGsの関係について自分なりの考えを持つことができたか。

(3) 本時の評価規準

【思考力・判断力・表現力】音楽のよさを写真や画像等を用い、根拠を持って表現している。

A：自分の好きな曲について、曲の特徴を捉え、そのよさを生徒それぞれの方法で表現し、音楽的な根拠を持って伝えている。

B：音楽のよさを写真や画像等を用い、根拠を持って表現している。

C：努力を要する状況への手立て

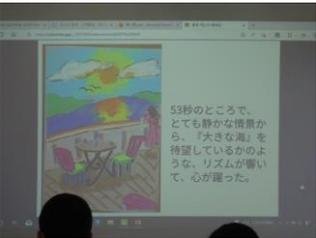
- ① 第1時と第2時で使用したワークシート等を参考に考えるよう声掛けする。
- ② 自分の心情のみを記入している生徒には、そう思うのは音楽のどの要素なのか考えさせる。

(4) 本時の展開

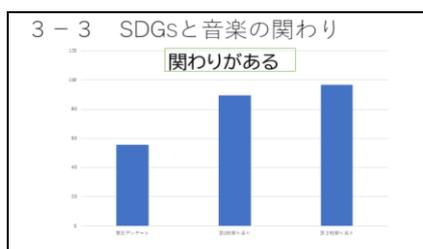
SDGsの目標



段階	学習活動	○指導上の留意点 ■発問 □予想される生徒の反応	評価規準 ◆検証の視点
導入 7分	<p>・これまで学んだことを振り返る</p> 	<p>■SDGsとの関わりについて、変化があるか見てみよう</p> <p>■ポピュラー音楽はどのような成り立ちか</p> <p>□ジャズから生まれて、ロック、ボサノヴァができた</p> <p>□人々が関わりを持っていた</p> <p>□機械の発達で、段々広まっていった</p>	<p>・関心を持って授業に臨んでいるか</p> <p>・ポピュラー音楽の成り立ちについて知っているか</p>
展開 28分	<p>めあて 「曲のよさを伝えよう」</p>		<p>・授業のねらいをとらえているか。</p>
		<p>■条件①3曲の中から1曲選ぶ②音楽の要素と関連させて、よさを伝える③絵、画像、写真、動き等を入れる④曲を挿入する(又はシートをつ</p>	

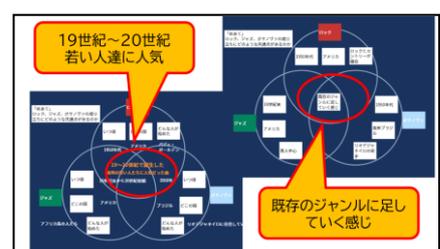
	<ul style="list-style-type: none"> 自分で用意してきた表現方法(写真、絵、図系譜、ダンス等)を用いる。 画像等をロイロノートに取り込む。 音楽の特徴を音楽の要素と絡めて考える。 <ul style="list-style-type: none"> ロイロノートを活用し発表する。  	<p>なげる)⑤曲全体なのか、何分位進んだところなのか。</p> <p>○音楽の要素、ポピュラー音楽の成り立ちと関連させて考えさせる。</p> <p>■それぞれの項目について考えよう。</p> <p>○まだ表現方法が決まっていない生徒には、第1時と第2時で使用したワークシート等を参考に考えるよう声掛けをする。</p> <p>○「合ってそうだから」等、自分の心情のみを記入している生徒には、音楽の要素と関連させて曲のよさを考えさせる。</p> <p>○クラスルーム、ロイロノートに入っている曲を聴いて考えさせる。</p> <p>○あらかじめ教師で写真を用意しておき、その中から選択させる。</p> <p>■隣の人と発表し合います。</p> <p>○友達の発表を聞き参考にさせる。</p> <p>■全体へ発表します。</p> <p>□We Will Rock You はリズムが目立っています。だから手拍子と足踏みをしました。この曲は、リズムが際立っていて面白いです。</p> <p>□ワルツフォーデビィはパーで流れていそうだと思います。理由は、なめらかなメロディがパーの落ち着いた雰囲気に合っているからだと思います。</p> <p>□ボサノヴァは南国のイメージがしました。理由は、マラカスのような音が出て、この音から南国の暑さをイメージしたからです。</p> <p>□この図系譜は、おいしい水のイメージです。色を薄く書いたのは、歌詞がささやくような声だったからです。</p> <p>□叫ぶような大きな声で歌っているので、バンドの人たちが演奏している写真を選んだ。</p> <p>○それぞれの発表に対し、音楽の要素の部分について全体で共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 条件に合わせて活動しているか。   <p>【思考力・判断力・表現力】②音楽のよさを写真や画像等を用い、根拠を持って表現している。</p> <p>◆①音楽のよさを写真や画像などで表現し、音楽的な根拠を持って説明できたか。</p>
<p>終末 15分</p>	<ul style="list-style-type: none"> google フォームに振り返りを記入する。 発表する。 	<p>■『ポピュラー音楽の学習を通して、SDGs で解決しようとしている課題とどう関わりがあるのか、生活の中での音楽の役割について考えてみよう』</p> <p>○皆の振り返りを可視化し多様な意見があることに気づかせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業を通して、SDGs で解決しようとしている課題に対して自分なりの考えを記入することができたか。 生活の中での音楽の役割について、音楽的根拠で考えることができたか。

(5) 本時の授業スライド



3-3 振り返り

- どの時代も音楽を支えられているんだなと実感したからです。
- 音楽で歴史を知れるし、音楽で教育できる
- 機械が発達して音楽がみんな聞けるようになってきたから
- 色々な人が交流しあって、音楽のジャンルができていると思う。いろんな人が協力している証だと思うから



ポピュラー音楽で学ぶこと
・1. ポピュラー音楽って何？
・2. いろいろなポピュラー音楽を聴こう。
・3. ポピュラー音楽の成り立ち
・4. 曲のよさを伝えよう

評価	
知識・技能	・音楽の要素が分かる。
思考力・判断力 ・表現力	・聴いたことを音楽の言葉で表せられる。 ・ポピュラー音楽のよさを根拠をもって説明できる。
主体的に学びに向かう態度	・文化や歴史について、主体的に学ぶことができる

めあて	〇〇に曲のよさを伝えよう
条件	①3曲の中から1曲選ぶ ②音楽の要素と関連させて、よさを伝える ③絵、画像、写真、動き等を入れる ④曲を挿入する（又はシートつなげる） ⑤曲全体なのか、何分位進んだところなのか

V 研究の結果と考察

研究仮説の「ESDの視点に立った音楽鑑賞を行うことで、音楽文化を創造する生徒が育成されたか」を考察していく。考察については、事前アンケート、行動観察、ワークシート等を基にして分析した。持続可能な社会づくりの構成概念とESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度の観点からも検証していく。

1 音楽文化を創造する生徒の姿

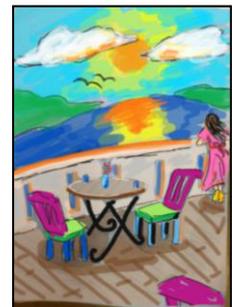
資料1は、生徒による音楽のよさを述べた文章である。生徒は音楽を感受したことと、音楽を形作っている要素を関連付けて説明している。言葉を抽出すると感受したことは、「寂しい雰囲気すぎず」「おしゃれなカフェ」「穏やかで落ち着いた」と表現している。音楽を形作っている要素は「うるさすぎず(強弱)」、「心地よいテンポ、優しい曲のテンポ(速度)」、「歌詞(テクスチャ)」、「メロディ(旋律)」であり、画像と音楽の要素、感受を関連させて表現することができたと言える。資料2の生徒Aは、「ディバドゥバがおもしろい」と歌詞の語感の持つおもしろさを跳ねながら体の動きで表現した。生徒Bは、「ピアノの音色がなめらかで」という所を、手をくねくね動かし表現した。動きで表現した生徒は、始めに曲のどのようなところがよいのか、知覚感受から音楽の要素へ繋げ、音楽は色々な要素が関わり合っていると理解できたと考える。更に、資料3は、「とても静かな情景から、大きな海を待望しているかのようなリズムが響いて心が躍った」と、曲想の変化に注目し、曲想の変化したところを「大きな海を待望している」と表現しその場面を絵で表現した生徒作品である。いずれの生徒も音楽の働きを自覚し、自分なりの表現方法で音楽のよさを伝えることができたと考える。更に、教材を「持続可能な社会づくりの」構成概念の「多様性」「相互性」「連続性」「責任性」の内容から授業計画・実施を行ったことで、音楽のよさを画像・絵・体の動きや文章等生徒それぞれの方法で表現することができて、「ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度」の「批判的に考える力」が育ったと考える。このことは、ESDの視点に立った音楽鑑賞を可能にしたと考えられる。これらのことから、音楽を形作っている要素の知覚・感受を支えとして画



資料1 音楽のよさを述べた文章



資料2 音楽のよさを体の動きで表現する生徒の姿



資料3 音楽のよさを絵で表現した生徒作品

像や体の動き文章等を生徒が選択して音楽のよさについて表現する活動を取り入れることで、音楽に対する感性が豊かになり音楽文化を創造する生徒の姿が見られたと考える。また、全授業で ICT を活用することで、生徒一人一人が好きな曲の聴きたい部分をじっくりと鑑賞する・ベン図を用いて楽曲やジャンルの成り立ちについて理解する・自分のイメージする画像を検索する・意見集約がすぐに行える等、多様な表現につながったと考える。

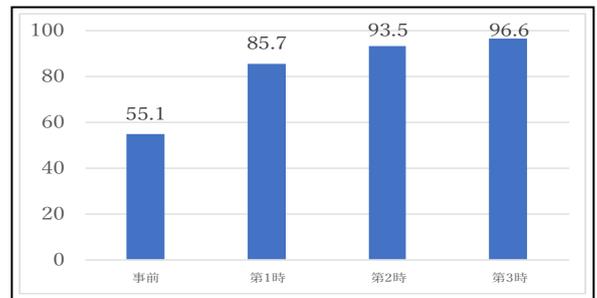
2 音楽鑑賞と ESD

(1) 音楽と SDGs の関係について、自分なりの考えを持つことができたか

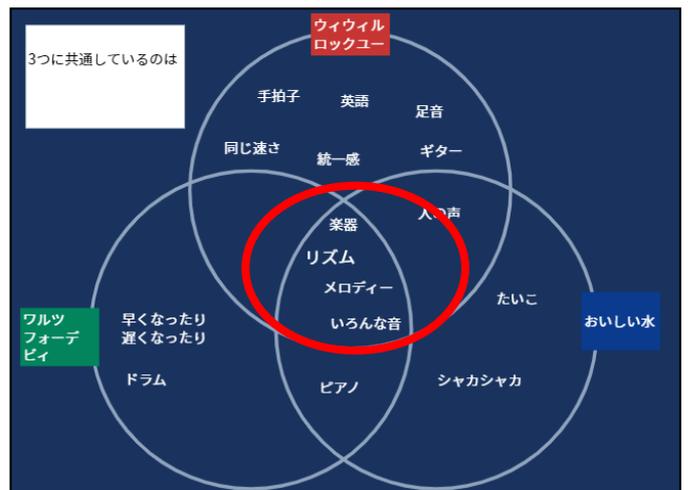
授業を通して、音楽と SDGs のつながりはあるのかを考えるよう生徒へ伝えて授業を始めた。SDGs の概要やゴールについては 2 学年で既習済みのため、今回の検証では SDGs の概要やゴールについて触れずに授業を行った。事前アンケートで「音楽の授業と SDGs で解決しようとしている課題に関わりがありますか」という設問で「関わりがある・どちらかといえば関わりがある」と回答した生徒は 55.1%おり、その理由として「聞くと元気が出たり、寄り添ってくれる」「感情に合わせて聞いたりしてリラックスできる存在。お家でずっと流れているもの」等の意見が挙がった。元気が出ることや、リラックスすることの何が SDGs につながるのかの考えは見られない。一方で、「関わりがない・どちらかといえば関わりがない」と回答した生徒は、44.9%で、理由記述を見ると、「SDGs は環境の事なので、音楽とは関係がない」「音楽を学んでも環境は変わらないから」等が挙がり、SDGs は、環境問題と関係していると捉えている生徒がいることが分かった。

毎時間の振り返り時には、「今日の授業(第3時は、ポピュラー音楽の授業)は、SDGs で解決しようとしている課題と、どう関わりがあると思いますか。」という設問で、授業を通して、SDGs について考える時間を設けた。その結果、「関わりがあると」回答した生徒が事前アンケートから第1時では 30.6 ポイント増加した(資料4)。これは、第1時の授業で取り扱った「3つのジャンルの共通性や固有性を見つける」(資料5)という学習内容が、ESD の学習目標「多様性」や「相互性」の色々な音楽があることや、音楽は色々な要素が関わり合っていてできている事を生徒が理解したと考えられる。また、これまで SDGs は環境問題と関係していると考えていた生徒へ「音楽と SDGs に関わりはあるのか」という授業始めの問いかけから音楽に対する捉え方が変わったことで、これまでの価値への揺さぶりとなったと考える。

事前アンケートと第3時の振り返りの記述を比較すると、記述が増えた生徒は 67%いて、記述内容にも変化が見られた(表2)。特にゴール3を選択した生徒Cは、「音楽で心の状態が変われることもあるので健康につながるから」と、音楽を聴くことが健康につながると考えた。全てのゴールを選択した生徒Dは、「音楽には、自分の思ったこと、自分の人生、歴史、世界の現



資料4 音楽の授業と SDGs で解決しようとしている課題に関わりがあると回答した生徒



資料5 3つのジャンルの共通性や固有性を見つけた生徒のベン図

状を伝える能力があって、それによって、その音楽を聞いた人たちが自分はどう動いたら良い、どうしないといけない、勇気を与えるなどの人を動かす力があるから。」と音楽には人の思考を促し、人を動かす力があると考えた。ゴール3・4・6・16を選択した生徒Eは、「音楽を聴くと心が癒やされ、健康になると思った。そして、音楽について歴史を学んでいくことにより、たくさんの事を考えたり出来ると思った。音楽により、世界が一つになれるかもしれない。戦争とかも、なくなってほしい。」と記入し、音楽を聴くことが心と体の健康につながる事、音楽を通して歴史を学ぶことができる事、生活や社会における音楽の意味や役割について自分なりの考えを記入した。

これらのことから、授業内容とSDGsの関わりについて問うことで、音楽鑑賞を通してSDGsを意識づけることができたと考えられる。

表2 生徒の事前アンケート・第3時振り返りの記述比較

生徒	事前アンケート(選択したゴール)	第3時振り返り(選択したゴール)
C	音楽は人に伝えることが得意だから。(1、16)	音楽で心の状態が変えられることもあるので健康につながるから。(3)
D	音楽で世界を伝えられて、知らない人は知ることができる。(1～17)	音楽には、自分の思ったこと、自分の人生、歴史、世界の現状を伝える能力があって、それによって、その音楽を聞いた人たちが自分はどう動いたら良い、どうしないといけない、勇気を与えるなどの人を動かす力があるから。(1～17)
E	SDGsは、聞いて、その上皆で行動しないと何も変わらないので、関係は無いと思いました。(関わりがない)	音楽を聴くと心が癒やされ、健康になると思った。そして、音楽について歴史を学んでいくことにより、たくさんの事を考えたり出来ると思った。音楽により、世界が一つになれるかもしれない。戦争とかも、なくなってほしい。(3、4、6、16)

(2) つながりを尊重する態度の育成

第1時に題材を通して「様々なつながりを見つけよう」と伝え授業を始めた。これは、ESDの視点に立った学習指導で尊重する態度の「つながりを尊重する態度」であり、今回の題材で最も育みたい態度として取り組んだ項目である。それと関連させて、「音楽は普段の生活の中でどのような役割があるのか」事前事後でアンケートを取り、生徒が普段から親しんでいる音楽に対して考えの変容があるのか比較した(表3)。事前事後アンケートの記述を比較すると、記述が増えた生徒は82%おり、記述内容にも変化が見られた。特に生徒Fは「音楽にはいろいろなジャンルがあること、更にジャンルごとにリズムや使われる楽器、それに伴う音色の変化により、音楽は聴くとリラックスする役割がある」と記述し、色々な音楽があること、音楽は色々な要素が寄り合っていてきていることに気づいた。生徒Gは、「人々の心に安らぎを与える、歴史を支えてきた、リズムや曲調の変化」と記述し、音楽が歴史と共に発展してきたこと、様々な音楽の種類の違いはリズムや曲調が関係している事に気づくことができた。生徒Hは、「誰かを弔ったり、人の気持ちに寄り添う役割」と記述し、人々の生活と音楽が関わっていることに気づくことができた。

これらの気づきは、ポピュラー音楽の鑑賞を通して、音楽が人の体や心、社会に影響を与えるものである等、音楽文化を理解しようとする態度が育ったためと考えられる。

このことから、ESDの視点に立った鑑賞の授業を行うことで、「つながりを尊重する態度」の育成につながり、「生活における『音楽の役割』について自分なりの考えを持つ」ことができて、音楽文化を創造する生徒の姿が見られたと考える。

表3 生徒の事前・事後アンケートの記述比較

生徒	事前アンケート記述	事後アンケート記述
F	疲れがとれる、冷静になれる、落ち着ける	音楽には、いろいろなジャンルがありジャンルごとにリズムが違ったりいろんな楽器の音色速度だったりたくさんの音楽があつて普段の生活の中で私達をリラックスさせてくれたりする役割がある。
G	音楽は、心を豊かにしてくれるもの	音楽は、人々の心に安らぎを与え、歴史を支えてきたと思った。また、リズムや曲調の変化のおかげで様々な音楽の種類があるとわかった。
H	とても身近な存在(毎日洋楽聞いている)	気分を明るくさせたり楽しませたりするだけでなく、誰かを吊ったり人の気持ちに寄り添う役割。

VI 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

- (1) 音楽は、人々や社会との結びつきがあるというESDの視点に立った音楽鑑賞を行うことで「つながりを尊重する態度」が育ち、人々の生活における「音楽の役割」について自分なりの考えを持つ生徒が育成された。
- (2) 生徒の感受したことを基に音楽のよさを自由に表現する活動を取り入れたことで、画像・絵・体の動きや文章等多様な表現で音楽文化を創造する生徒の姿が見られた。
- (3) 全授業でICTを活用することで、生徒一人一人が好きな曲の聴きたい部分をじっくりと鑑賞したり、ベン図を用いて楽曲やジャンルの成り立ちについて理解したり、自分のイメージする画像を検索することに役立ち、生徒の多様な表現につながった。

2 今後の課題

- (1) グループ内での話し合いを行ったがより多くの意見に触れる場面を設定することで多様な考えに触れ、より創造的な活動につなげることができるのではないかと。
- (2) ESDの視点に立った学習指導で重視する態度の「他者と協力する態度」の育成につなげるためにも、オンラインで授業に参加する生徒が話し合いに参加できるよう配慮する必要がある。

〈主な参考文献〉

- 文部科学省 『中学校学習指導要領解説 音楽編』 教育芸術社 2019年
 文部科学省 『持続可能な開発のための教育』
https://www.mext.go.jp/content/20210528-mxt_kokt01-100014715_1.pdf 2022年4月27日取得
 奈良教育大学 『ESDとしての音楽授業実践ガイドブック』
<https://www.nara-edu.ac.jp/ADMIN/SOUMU/miyashit/miyashit-3.pdf> 2022年4月27日取得
 奈良教育大学 ESD書籍編集委員会編著『学校教育におけるSDGs・ESDの理論と実践』
 協同出版 2021年